

「ほうじょう」コラム

令和7年3月14日

題 相模湾浮魚礁が新しくなりました

航海士 三輪洋介

神奈川県は、昨年の11月12日に相模湾の水温観測と回遊性魚類の蛸集を目的とした浮沈式浮魚礁（図1）全3基が耐用年数を迎えたため撤去し、新たに表層式浮魚礁（図2）2基を整備しました。名称も以前は「浮き相模」でしたが、それぞれ「城ヶ島西方浮魚礁」、「相模湾中央浮魚礁」と位置が把握しやすい名称へと変わりました。

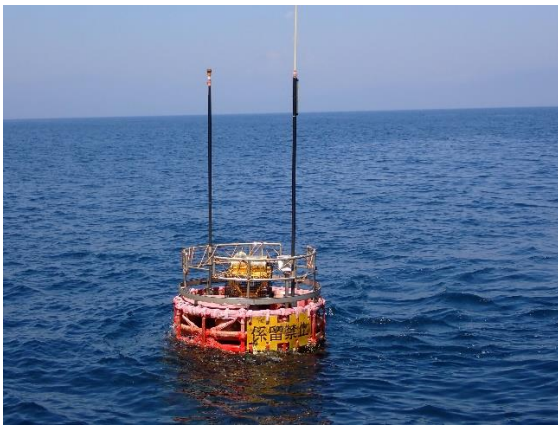


図1 以前の浮沈式浮魚礁

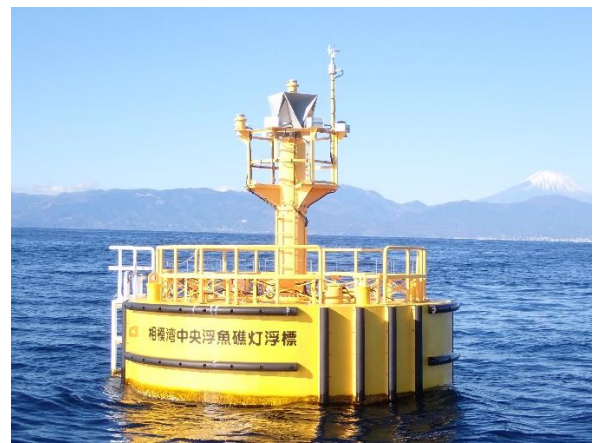


図2 新しく整備された表層式浮魚礁

近年の燃油価格の高騰による漁家経営の圧迫や、突発的に発生する急潮が定置網漁業へ大きな被害をもたらすことがありました。これらへの対策として、回遊性魚類の漁場を相模湾に創出すること、連続的な海洋観測により急潮予測を行うこと等を目的に浮魚礁の整備は行われました。

漁業調査指導船「ほうじょう」では、浮魚礁本体の損傷やルアー等が引っ掛かっているかを確認するため定期的な見回りを行っています。ルアーや錘は浮魚礁の観測機器にぶつかり破損させることが考えられます。もし異常が発生した場合にはデータの取得ができなくなる他、多額の補修費用が掛かることとなるため、周囲を航行される際や漁業をされる場合にはくれぐれもお気を付けください。また、大きく注意書き（図3）としても書かれていますが、浮魚礁への乗り込みや係留は禁止しています。これらのルールを守った行動をよろしくお願いします。



図3 表層式浮魚礁の注意書き

表層式浮魚礁については、以下の URL にも記載していますので、周辺に行かれる方は確認のほどよろしくをお願いします。

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/cnt/f790/p837075.html>